

【エクアドル内政・外交：2012年10月】

1. 概要

10月	2日	第67回国連総会一般討論演説におけるアルブハ外交担当外務副大臣の演説
	5日	スペインのフェリペ皇太子同妃両殿下のエクアドル訪問
	9日	当国外務省は、チャベス・ベネズエラ大統領再選への祝意を表明する外務省コミュニケを发出
	9日	第二回エクアドル・韓国政策協議
	12日	アルブハ外務副大臣のペルー訪問
	18日	選挙管理委員会(CNE)が2013年選挙を公示
	25～26日	コリア大統領、パティエーニョ外相のチリ訪問

2. 内政

(1)2013年大統領選、国会議員選挙

18日、選挙管理委員会(CNE)が2013年の大統領選挙、副大統領及び国会議員選挙を正式に公示、政党・政治運動が11に限定された。憲法裁判所は、選挙法203条が選挙期間中にメディアは選挙候補人のプロパガンダを行うことを禁じている。CNEは、11月15日まで各選挙の候補者登録の受け付けを行う。

(2)国家接收された COFIEC 銀行によるアルゼンチン人ドウサク氏に対する不透明融資

ア. 1日、COFIEC 銀行の経営管理者が国会の検察委員会に召還されることが決定。
イ. 6日、コリア大統領は、土曜ラジオ・テレビ演説において、本件は、イサイアス兄弟の判決(Filan 銀行の公金横領の罪に問われている Isaias 兄弟に対する判決。1999年の金融危機を引き起こしたと言われている)の重要な証人であるペドロ・デルガド(コリア大統領の従兄弟)を攻撃するために策略された旨発言。

3. 外交

(1)第67回国連総会一般討論演説におけるアルブハ外交担当外務副大臣の演説

1日、アルブハ外交担当外務副大臣は67回国連総会で演説を行い、国連安保理に関し、「国際社会が適切な集団的安全保障システムを持つことを容易にするため国連を代表的、民主的、効率的なものに戻すことが必要」とし、より公正で開かれた、代表的、民主的な新国際秩序の構築を進めるため国際社会に決意と政治的決定を示すよう要請した。又、理事国のカテゴリー、拒否権の問題、地域配分、理事国数の拡大を含め統合的な改革を支持した。

(2)スペインのフェリペ皇太子同妃両殿下のエクアドル訪問

5日、フェリペ皇太子同妃両殿下は夫妻としては初めてエクアドル訪問を行い、午前中にキト市賓客宣言(キト市の賓客としてキト市の鍵を受領)を受けた。更に第一回スペイン・エクアドル会合に出席し、スペイン企業は対エクアドル投資の首位にあり、雇用、知識・技術移転、富の創出、経済成長を産んでいると説明した。同日午後、フェリペ皇太子同妃両殿下は、大統領府でコリア大統領に栄誉礼を持って迎えられ、大統領主催の昼食に参加する前に多くの側近や大臣と共に会合を行った。

(3)対ベネズエラ関係

9日、当国外務省は10月7日に実施されたベネズエラの大統領選挙に関し、「エクアドル

は成功裡の選挙プロセスとチャベス大統領の再選につきベネズエラ国民を祝福する。」との外務省コミュニケを発出し、「ベネズエラ国民の表明は、エクアドル国民が共有するボリバルの統合精神の有効性の証である。チャベス大統領の再選はより公正で連帯ある経済社会システムを建設し続けるとの大多数のベネズエラ人の約束を繰り返し表明するものである。」と祝意を表明した。

(4) 対韓国関係

ア. 8日、エクアドル、韓国両国は二重課税及び脱税防止協定に署名した。同協定は脱税慣行に対峙する手段として二国間に租税機関を設け、租税、貿易及び投資面での二国間関係の強化を可能にするものである。パティニーニ外相及びIn Gyun Chung当地韓国大使が同協定に署名した。

イ. 9日、マルセロ・バスケス外務副大臣代理とKyou-Hyun Kim韓国外務副大臣は第二回エクアドル・韓国政策協議を主宰し、エクアドルと韓国が外交関係樹立50周年であることを強調するとともに、韓国政府が主要インフラ・プロジェクト、特に製油所建設、エネルギー創出・供給、再生エネルギー・プロジェクトにおける教育、科学、技術、経済開発の経験をエクアドルと共有し、更に太平洋及びエスメラルダ製油所、Yachay知識基盤都市、ガラパゴス太陽光発電プラント、サント・ドミンゴの飲料水システム等のプロジェクトにおける先端技術を移転することが強調された。更に、エクアドルと韓国は開発のための貿易協定の交渉及びエクアドルにおける韓国貿易事務所再開の可能性を提起した。また、韓国政府は、エクアドルがUNASURやCE L A C等の地域機関との政治関係を緊密化するための架け橋となるよう要請した。

(5) 対ペルー関係

12日、アルバハ・エクアドル外務副大臣がペルーを訪問し、ロンカリオ外相と会合を行い、11月23日に、エクアドルのクエンカにおいて首脳会合及び第6回両国合同閣議を開催することを決定した。会合においては、二国間関係にかかる多くのアジェンダについてもレビューし、良好な二国間関係を再確認した。

(6) 対チリ関係

25～26日、コリア大統領及びパティニーニ外相はチリを訪問し、ピニエラ大統領と首脳会談を実施した。右会談ではチリ・ペルー間の領海境界線問題に言及し、本問題は国際裁判所にて平和的に解決されるべきであると述べた。また、コリア大統領は、チリのコデルコ社が所有する、ガビ(Gaby)鉱山を視察しチリの鉱業の発展の現状に関心があり、エクアドルとしても今後鉱業の促進を検討したいと述べた。しかし、同時に、鉱山開発の収益は国に属するものであり、「環境、社会開発を尊重した海外投資を歓迎するが、収益の大半は、資源の保有者(国)に帰属するものである」と述べた。また、鉱業に関して、「エクアドルは多大なる潜在能力を有しているが、鉱山開発は決して容易な問題ではない。国民の多数は鉱業に疑義を呈しており、自分もその一員であるが、エクアドル国民が強いられている極貧はより深刻な問題である。鉱山開発は環境問題を併発しかねないが、貧窮する国民を救うことがより重要である」と述べた。